

# からし種

日向学院司牧部・宗教科通信



第13号

平成28年10月26日

発行

## チマッティ神父の手紙から学ぶ②

十月六日はチマッティ神父の命日ですので、今月はチマッティ神父についての記事を紹介しましょう。

「私は愛情があふれるあまり、感情を抑えることができません。これは私の欠点です。あまりにも人を愛しすぎます」(タシナリ神父に宛てた手紙)。

神から愛されることを味わったものは、その愛を自分の中だけに留めておくことはできない。彼は司祭に叙階されたときから宣教師となることを強く望んでいた。チマッティ神父は、「私に、貧しさと苦勞と遺棄が与えられる宣教師が与えられるように祈ってください」と願い、サレジオ会の総長であるリナルディ神父に手紙を出している。この手紙には、チマッティ神父の人々への愛が表れている。

彼の人々への愛はとても単純である。同じ屋根の下に住む兄弟に対しても温かい心、励ましの言葉、寛容な態度で接している。また、その謙虚な態度には敬服する。

彼が当時管区長であったダルクマン神父に書いた手紙には、「きのう、私は、ある兄弟に対して愛徳に反することをしました。私は大きな痛悔感を味わいました。だから、今日この一日、祈りと犠牲を捧げます。」

彼の人々への愛のもう一つの特徴は、人を信頼し、人を導くのを放り投げてしまわないことだ。絶えず人々が神のほうを見るように挑戦することをやめない。チマッティ神父は寛容な信頼をもって人々と接していたため、多くの人々は自分に対して不信感をもつことから解放され、自信をもって神への道を歩むことができた。

チマッティ神父にとって修道生活を選んだことは、神に対する愛の行動の表れである。知つての通り、チマッティ神父は、博物学と音楽の博士号をもっていた。特に音楽では優れた学識と才能を持ち合わせ、司祭にならなければ相応の地位までのぼりつめたはずであった。約束された地位を捨てて、奉獻生活を選んだチマッティ神父にとって、生きていくこと自体が祈りの行為となった。彼は、活動と祈りを分離することができなかった。

たとえば、ピアノの弾き方について書いた手紙には、「すべての音符は神を賛美する心を。一つ一つの鍵盤は、キリストによって、キリストと共に、キリストのうちに……」と一瞬一瞬が神のために捧げられていることが伺える。生活そのものが絶え間ない愛の連続であるチマッティ神父にとって病床にいたときに、さらにその愛は純度を増していく。病床にあるときの手紙には、「私にとって神のみ旨に食い尽くされることのほかには何も望みません。どうかこの惨めな者が、神の完全な愛の中で死ぬるようにお祈りください」と書いてあった。神のみ旨に食い尽くされたいと望む激しいチマッティ神父の愛は、日増しに人間関係が分裂、分解していく現代社会を、もう一度、回復させようとするものなのである。(カトリック生活第八三二号(平成十年十月号)二八〜二九頁 ゲエン・ミン・ラップ神父の記事より抜粋)

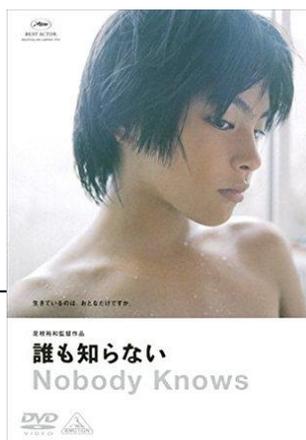
# LET'S READ THE BIBLE IN ENGLISH.

*"Don't be afraid; you are worth more than many sparrows."* (Luke 12 : 7)

「恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまぎっている。」(ルカ 12 章 7 節)

Hi, everyone! 今回もイエスの有名な言葉です。 **afraid** は「恐れている」という形容詞ですので、**be afraid** で「恐れる」の意味です。**worth** は「価値がある」という意味です。**more than** ~は「~が示す意味より以上に」という意味です。神様が造られた大自然の中で、一羽の雀さえ自由に飛び回っている。だから、恐れることなく、あなたは与えられた今を一生懸命生きればいい。あとは神様が何とかしてくださるのだ、ということです。 **God bless you!**

## Christian Library



誰も知らない (2004 年, 日本)

監督：是枝裕和

上映時間：182 分

主演の柳楽優弥が史上最年少の 14 歳という若さで、2004 年度カンヌ国際映画祭主演男優賞に輝いた話題作。最近では『そして父になる』(2013 年)『海街 diary』(2015 年)などのヒットで知られる是枝裕和監督の 2004 年の作品。実際に起きた母親が父親の違う子供 4 人を置き去りにするという衝撃的な事件を元に、構想から 15 年、満を持して映像となった。(撮影時、子どもたちに台本は渡されず、監督のその場の指示で演技させたという。そんな独特の演出スタイルによって生み出された、生々しくもみずみずしい空気感が素晴らしい。)

都内の 2DK のアパートで大好きな母親と幸せに暮らす 4 人の兄妹。しかし彼らの父親はみな別々で、学校にも通ったことがなく、3 人の妹弟の存在は大家にも知らされていなかった。ある日、母親はわずかな現金と短いメモを残し、兄に妹弟の世話を託して家を出る。この日から、誰にも知られることのない 4 人の子供たちだけの『漂流生活』が始まる……。

今まで紹介してきた映画と違って、見終わった後にスッキリした気分を味わえる映画ではないかもしれません。また、本来大人に見てほしい映画かもしれませんが、6 人に 1 人が貧困といわれる日本社会の知られざる厳しい現実には、生徒のみなさんが少しでも関心を持つきっかけとなってくれればと思います。